

令和5年度 第2回 こどもの未来応援基金事業審査委員会
(令和6年度未来応援ネットワーク事業)
議事要旨

日時：令和5年12月26日(火) 15:00～16:30 ハイブリッド開催

議題：

- ・支援申請状況について
- ・審査基準等について
- ・申請団体の審査及び採択候補の選定

出席者：

【委員等】

板谷 ゆり	児童養護施設 一陽 児童指導員
川 副 馨	滋賀県健康医療福祉部子ども・青少年局家庭支援推進室室長
川那部 留理子	株式会社大和証券グループ本社 経営企画部 サステナビリティ推進室長
草間 吉夫	新島学園短期大学 准教授
小山 遊子	株式会社イトーヨーカ堂 経営企画室サステナビリティ推進部総括マネージャー
中原 賢一	大田区社会福祉協議会 事務局長
松永 朋美	横浜市こども青少年局こども福祉保健部担当部長
宮本 みち子	放送大学 名誉教授・千葉大学 名誉教授

※五十音順・敬称略

議事要旨：

○支援申請状況について
(事務局)

本年度は、公募の結果、404件、約7億5855万円の申請をいただいた。
事業類型別の申請状況は、「様々な学びを支援する事業」「居場所の提供・相談支援を行う事業」「衣食住などの生活の支援を行う事業」が多くなっている。

団体種別の申請状況は、NPO法人からの申請が一番多くなっており、次に非営利任意団体からの申請が多いという結果になっている。

事業区分別の申請状況は、事業Aでは、3回目支援の19団体、2回目支援の49団体、新規支援の172団体から御応募いただいた。事業Bでは、3回目支援の12団体、2回目支援の17団体、新規支援の134団体から御応募いただいた。

地域別の申請状況は、45都道府県の団体から申請をいただいた。

○審査基準等について
(事務局)

1) 計画性では、①支援金額、法人等の体制及び活動状況等を踏まえた実現可能な計画となっているか、②事業計画、資金計画が目標及び成果に対して妥当なものか、③支援を行うべき対象者を把握及び明確化できているか、④実際に支援を提供するための具体的な方法が記載されているかを審査の視点としている。

また、4) 継続性では、①事業の実施によりもたらされる効果が長期にわたり維持される工夫の記載があるか、②事業予算のうち特に毎年一定額発生する費用が過大ではないか、③支援期間終了後にその費用を補填する具体的な方法が期待されているかを審査の視点としている。

○申請団体の審査及び採択候補の選定

個別の団体の採択の是非について議論を行った。主なコメント及び審査所感の概要は以下のとおり。

- ・ 学習支援に加えて、不登校生に対する課外授業や地域学習等に範囲を広げ進路相談にも力を入れようとしている企画には期待がもてる。
- ・ スポーツ機会の少ない貧困家庭のこどもを念頭において、過疎地を巡回し、こども食堂と連携して、スポーツの楽しみやこども食堂の広報を兼ねようとする試みはユニークで、持続すれば効果が期待できる。
- ・ 様々な状況におかれる中高生、若者の学習支援や居場所の提供で、非行・非行傾向のある子どもの居場所にも寄与することを目指しているのは貴重な取り組みと考える。対象となる年齢を超えても、相談先や居場所として機能できないか。社会福祉協議会や町の主管課、他の居場所との連携も明示されており、継続が望ましいのではないか。
- ・ 新規事業として、ひとり親世帯のニーズを的確に把握し、複数の支援サービスを組み合わせ実施している。相談事案発生時に随時対応、その子の居場所の確保、親子の滞在・宿泊支援、親子の話し合いや学習支援、専門機関や学校への同行支援などを総合的に実施しようとしていることは評価できる。
- ・ こども食堂、フードパントリーから発展して学習支援や様々な体験の提供へと発展している。令和7年に次の補助申請予定もあり支援することで体制強化を図り自立継続していつてもらいたい。
- ・ 食支援について、2週に1度の頻度で自らお弁当を作る計画となっており、対象者が料理を身に着け自立した食生活が期待できる長期的な効果がある。
- ・ 里親支援や結婚子育て相談支援など、審査を通じて、自分の地域ではなかなか支援が進んでいない事業についても学ぶことができ、大変参考になった。

以上